

呼出装置(無線式)の製作

1 相談内容

相談者は入所施設職員です。「対象者が居室から離れてもナースコールが押せるように誰かに無線式の呼出装置(送受信器)を作ってもらったらしいが壊れてしまった。随分昔のことで職員もわからない。」と相談がありました。壊れた実物を見せていただき、判断することになりました。

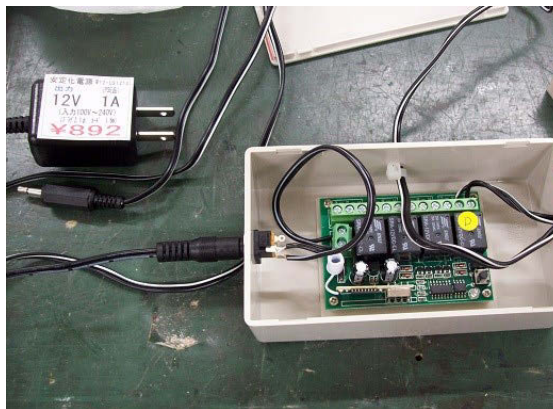
2 対象者プロフィール

60代男性、身体障害者手帳1級です。脳性麻痺です。電動車いすをチンコントロール(顎)で操作しています。入所施設で生活しています。また顔の前に置いたタブレット端末を口にくわえたスタイラスペンで操作しています。

3 対応

実物の呼出装置を見せていただくとその仕組みは無線式の4チャンネル・リレーであり、送信器側のスイッチを押すと電波が飛び、受信器側の1チャンネル分のリレーが動いて部屋につながっているナースコールのボタンを押したことになる機能を持っていました。

対象者と相談し、製作することになりました。送信器の位置は対象者の希望により、電動車いすのタブレット端末の傍に設置し、押しボタンスイッチ(タクトスイッチ、以下の赤丸部分)をマウススティックで押せるように工夫しました。



製作した受信器側リレーの様子
(黄色シールを貼った1チャンネルを使用)



製作した無線式の呼出装置(送受信器)

4 結果

相談者から「送信器をタブレット端末の隣へ取り付け、マウススティックで押して居室以外からでもコールできています。」と教えていただきました。

5 予算

5,300円程度